



発行
豊中市人権教育推進委員協議会
機関紙編集部会
(豊中市教育委員会事務局社会教育課内)
電話 06-6858-2580



令和6年度(2024年度)人権作品募集入選作品より

巻頭言

とんとんとんはなんのおと

会長 青木 康二

SNS上での誹謗中傷ニュース、ふとわが息子とのことを思い出しました。時期が合えば一緒にお風呂に入りました。私が後のときは、ドアをたたき「とんとんとんはなんのおと?」と言います。中から「お父さんの音」と聞こえてきます。ときどき、「はあーい」と返ってくるときがあるので、ちがう、ちがう、「とんとんとんはなんのおと?」ともう一度やり直し。息子が後のときは恥ずかしがって「とんとんとん」としか言いませんが、「〇〇の音」と返して、彼はドアを開けます。物心ついてから20数年「とんとんとん」が歴史でした。彼はこの8月で40歳、最近はなかなか私を振り向いてくれません。「とんとんとん」は、絵本『ぼとんぼとんはなんのおと』が虎の巻。暗い



巣穴で冬籠りをしているクマの親子のお話。外から聞こえてくる音だけで想像する冬の世界、少しずつ春が近づいてくるのを感じて、ラストに向かって心が高まっていくのを感じる絵本。なんのたわいも無いやりとりでしたが、

「とんとんとん、お父さんはここにいてるよ。おーい、返事、してーや!」と息子に私の存在を確かめてほしいと信号を送っているつもりでした。そして返ってくる「お父さんの音」という息子の言葉に、なんとも言えない互いの存在の確かめ合いのようなものを感じていました。返事がなければどれだけ淋しいことか。返事があるまで「とんとんとん」。一方、返事が返ってくるための自分が息子にとってどれだけ信頼に足るものであったのか、「そうだよ、ぼくもここにいてるよ、お父さん。しっかりとぼくを受け止めてね」常に問われているような気もしていました。「おはよう」とあれば「おはよう」と応える、そこには「私はここにいてるよ」と自分の存在を訴え、返される言葉の底の「私もここにいてるよ」とお互いの存在を認め合い、互いのいのちを確かめ合う、ほんまに大きな作業なのだと思います。それに応えないときは、「無視」。無視は相手の存在を否定する。極論すれば、相手の命すら奪うことにつながる。真正面から向き合うことこそが「いのちの確かめ合い」につながるのだと息子をとおして思い起こしました。

◆総会報告◆

令和7年(2025年)
5月15日(木)豊中市
立芸術文化センター小
ホールにて豊中市人権
教育推進委員協議会の
総会が、86名の推進委
員の方々のご参加のもと開催されました。令和6年度



の事業報告・会計決算報告・監査報告の承認ののち、令和7年度・令和8年度の役員の推薦・承認、人権協規定の改正の提案・承認、本年度の事業計画と予算の提案・承認がなされました。

今年度の活動指針として、貧困、飢餓、教育、ジェンダー平等などの人権に係るさまざまなことを改善するため、ささいな羽ばたきであっても嵐を引き起こすというバタフライ効果を信じ、活動を続けてゆくことを提唱し総会を終了しました。活動は「ビリョク」だけど「ムリョク」ではありません。

◆総会後の研修会を終えて◆

総会後に人権啓発ビデオ『あなたのいる庭』が上映されました。

阪神淡路大震災で夫と幼い娘を亡くし心を閉ざした主人公の和佳奈と、親から虐待され児童養護施設で暮らしながらも大学進学を望む高校生の実結との交流を描いたドラマで、施設の子もたちに偏見を持つ近所の人々、震災で親を亡くし施設で育った指導員、音沙汰がなかったのに会いたいと言ってきた実結の母親などが登場します。

児童養護施設の入所は18歳までで、その年齢に達した子どもは、進学や就職など生きる上での困難に直面しているのが現状とのこと。次代の社会を担う子どもが、一人の人間として尊重され自分らしく安心して暮らせる社会が実現できればと切に願います。



人権教育をすすめる市民の集い

(世界人権デー啓発事業)

開催要項

主 旨 豊中市人権教育推進委員協議会はすべての市民の人権意識を高め、より人権尊重の輪を広げるため「市民の集い」を開催します。

開 催 日 令和7年(2025年)12月9日(火)

時 間 13:00～15:30(受付12:30～)

会 場 豊中市立文化芸術センター中ホール
(アクア文化ホール)

プログラム

意見発表 十二中校区

記念講演 タイトル 講演「はだしのゲン」(中沢啓治氏原作)

講 談 師 神田 香織 さん

福島県いわき市出身。ジャズ講談など独自の講談を次々と発表。2011年の震災後、NPO法人を立ち上げふるさと福島を支援。2024年講演「はだしのゲン」などの社会派講談で澄和「平和活動賞」受賞。現在講談協会副会長。



「人権教育をすすめる市民の集い」参加について

「市民の集い」に参加ご希望の推進委員の方は各地区代表委員または常任委員に直接お申し込みください。一般の方は下記までお申し込みください。 申込締切 12月2日(火)

手話通訳・筆記通訳・保育あり(保育は2歳以上。12月2日(火)までに要予約)

参加申込(問合せ先)

〒561-8501 豊中市中桜塚 3-1-1

豊中市人権教育推進委員協議会事務局(社会教育課内) 電話 06-6858-2580 FAX 06-6846-9649

令和7年度(2025年度)活動方針

戦後80年にあたり、今なお世界各地の紛争にあって日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞されたことは重要なことです。国連が掲げる持続可能なSDGs(エスディーゼズ)の目標にも、貧困や飢餓、教育、ジェンダー平等、人や国の不平等、そして平和と公正などがあります。紛争の解決や核兵器廃絶など平和への実現は困難を要しますが、微力であれ武力の行使ではなく、平和回復に向けてテーブルでの努力は続けられています。

私たち「人権作品パネル展」にも秀作がそろいました。隔年ごとポスター・標語・詩・作文など市民の声を集めてきました。小学生から一般まで、多くの市民がメッセージとして作品に込められた生き方をしてくれることに期待します。

市民の集い。十一中校区の発表では、デジタル時代がテーマ。DVD「大切なひと」を観て研修したSNS問題につなげ、二次元だけでなく三次元世界の大切さ、人に関わり、人と刺激し合い、人を思いやる、つまり「生きる力」の基盤づくりに言及されました。

記念講演は絵本作家の長谷川義史さん。作品の随所

にどこか懐かしさを感じるのは、長谷川さんの生活体験から紡ぎだされるリアリティが根底にあるからだと思います。

その体験とは早くに亡くされた父親の記憶、女手一つで育ててくれた母親のこと。絵本「かあちゃんがつくった」では、がんばるかあちゃんは何でもミシンで作ってくれます。そんなら「とうちゃんつくってえな」「とうちゃんはつくれん」と困らせます。父親参観の日、誰も来るはずもない教室、うしろを見てはくは息がとまった。かあちゃんが背広を着て立っていた。そんな結末に多くの方が笑い涙されていました。即興で描く紙芝居も引き込まれました。

バタフライ効果という言葉に耳にします。蝶の羽ばたきのようなささいな動きが予想不能な嵐を引き起こすということです。人権協の半世紀を超える活動も微力ながら草の根を広げてきました。機関紙「じんけん」の巻頭言にありますように、活動は「ビリョク」だけど「ムリョク」ではありません。バタフライ効果を信じ、さらに一步を踏み出しましょう。



つなごう つなげよう 人権の輪



知ること

人権というと、何だか漠然としていてよくわからないというのが最初の印象でした。もしかしたら、そういった場面に触れる機会が少なかったからかもしれませんが、今回常任委員という役を受けさせていただくにあたり、「知る」機会を増やせたらと思っています。

それには、まず自分のこと。これが意外にもわかっていてつもりでも違って、新たな発見という場合もあります。その上で周りの状況や人に目を向けられれば、より深く知ることができそうな気がします。一人として同じ人はいないので、理解するのは難しいけれど、知ることにはできます。知ることと積み重ね、少しでも理解が深まればと思います。

十二中校区常任委員 並河 亜依

「分断社会」におけるじんけん意識とは

ある知識人たちが評論する「分断社会」とは、経済格差のある社会や政治的意見が対立している社会などのことをいうそうです。

上下関係・性別・国籍などの個々人の属性に関して、自分との違いを認めたがらない空気感や排他的思考に繋げてしまう風潮があるのかも知れません。

私は、じんけん意識は恒久的で普遍のものと思っていました。

しかしながら、昨今ますます発達している SNS に代表される情報社会で、私たちの意識に影響を与えているであろう情報過多や情報の偏りもあるのではないのでしょうか。結果、私自身も意識に自信が持たなくなってしまう。

じんけん意識は、「家庭内で培った文化的素養や立ち振る舞いなどにより醸成される」と物の本で読んだことがあります。

じんけん教育への接し方やそれを重視する学びを継続的に実施し、他者をリスペクトし思いやること、認め合うことの大切さを伝えていきたいものです。

九中校区常任委員 有ヶ谷 一郎

学校では今

豊中市立南桜塚小学校長 山地 輝宣

4月から思い出深い南桜塚小学校に校長として赴任しました。私は今から20数年前、新任教員として本校でお世話になりました。

私が教員でお世話になっていたころ、西田益久先生が校長でおられ、「同和教育の大切さ」を職員室の真ん中で熱く語っておられました。その西田校長の思いは教員一人ひとりがしっかり受け止め、子どもたちに「仲間の大切さ」を丁寧に伝え、人権教育を地道に進めていました。それは、今も本校の教職員に受け継がれています。

本校は熱心に子どもに関わる教職員ばかりです。熱心だからこそ日々の教育活動で常に悩んでいます。私は悩める教職員一人ひとりに思いを語らせたいと考え、「子どもへの関わり方」について、職員会議の場で語り合う時間をしっかりとりました。また、教職員から「めざす子ども像について語りたい」との提案もあり、夏季人権校内研修の場で、じっくり語り合いました。この語り合った時間が貴重で有効に感じた教職員が多く、私も「今後、より一層組織的な人権教育活動が進められるぞ!」と期待感を持ちました。

教師の直向きな教育活動が実を結んだと思える瞬間がありました。一つ紹介します。栽培委員会の児童が、夏野菜栽培に取り組みました。収穫した野菜をどうするか話し合った際、「子ども食堂でお世話になっているお年寄りに野菜をあげたい」と子どもたちが提案してくれたのです。野菜を受け取ってくださったお年寄りの方は、「こんなことは初めてです」と、たいそう喜ばれました。

子どもに寄り添い、最後まで関わりを大切に作る教職員がいるからこそ、「人の気持ちがわかる、寄り添える」という心の温かい子どもたちが育つのだと確信しています。

基礎講座を受けて…

①豊中人権協のあゆみと今後の課題

元豊中市教育委員会人権啓発指導員 新堀 祥一

②戦後80年、へいわがいちばん「虎に翼」にみる日韓国交正常化60年

人権協事務局長 西田 益久

①結婚を控えた子を持つ親御さんが出したある一通の手紙をきっかけに人権協結成へのあゆみは始まります。その中で仲間内の会話で出た差別発言はどう捉えるかと言った質問があり「その発言をそれは違うよと言える自分でありたい」との回答をされていました。私もそうありたい。自分を守るためにも他人事ではなく自分事として捉えなければならぬと改めて感じた基礎講座でした。

十三中校区常任委員 富ヶ原 麻衣

②戦後80年という節目の年に、改めて平和の尊さを深く考えさせられました。戦争を知らない世代だからこそ、過去の経験に真摯に耳を傾け、未来へと語り継いでいく責任があると感じます。当たり前だと思っているこの時間が、決して当たり前ではないことを学びました。「へいわがいちばん」という素朴で力強い言葉を胸に刻み、日々の暮らしに感謝したいです。

十六中校区常任委員 ホーキングズ イオラニ

第1回推進委員研修講座

・テーマ 「児童養護施設の子どもたち」～どこからきて、どう育ち、旅立つのか～

・講師 関西大学大学院社会学研究科 西林 佳人さん

私の中で児童養護施設とは、郊外で環境の良いところにあり、自然豊かなところで育つことが子どもためになると思っていました。少し前までは郊外の大規模な施設が多かったものの、2011年に厚労省から家庭養護の推進が掲げられ、施設は小規模化する傾向にあると聞きました。

この研修を受け自分に出来ることは何かと考えた時、まずは児童養護施設を正しく理解することだと思いました。豊中市内にも児童養護施設があり、そこで育った人は地域の学校に通い、私も自然に関わりを持つ可能性がある中で、肩肘張らず自然な関係でありたいと思いました。そして児童にとって自分のことを気にしてくれる大人として、認識されれば嬉しいなと思いました。

庄内さくら学園校区常任委員 國見 静香



第2回推進委員研修講座開催案内

日時: 2025年11月4日(火) 10時～

場所: 地域共生センター 3階大会議室



第3回推進委員研修講座開催案内

日時: 2026年2月12日(木) 10時～

場所: 豊中市教育センター 教科教育研修室



編集後記

10月13日に閉幕した大阪・関西万博のコモンズ館に戦時下でも参加していたウクライナ、イスラエル、パレスチナ、「平和ってとても大事だよ」というメッセージをこめた展示がありました。世界が平和になりますように…

最後になりましたが、機関紙「じんけん」169号発行にあたり、ご投稿いただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。
副会長 若柳 玉貴